



健康・安心の環境

地域医療の推進

～ 安心・安全な地域医療の確保に向けて～



釜石市
地域医療連携推進室

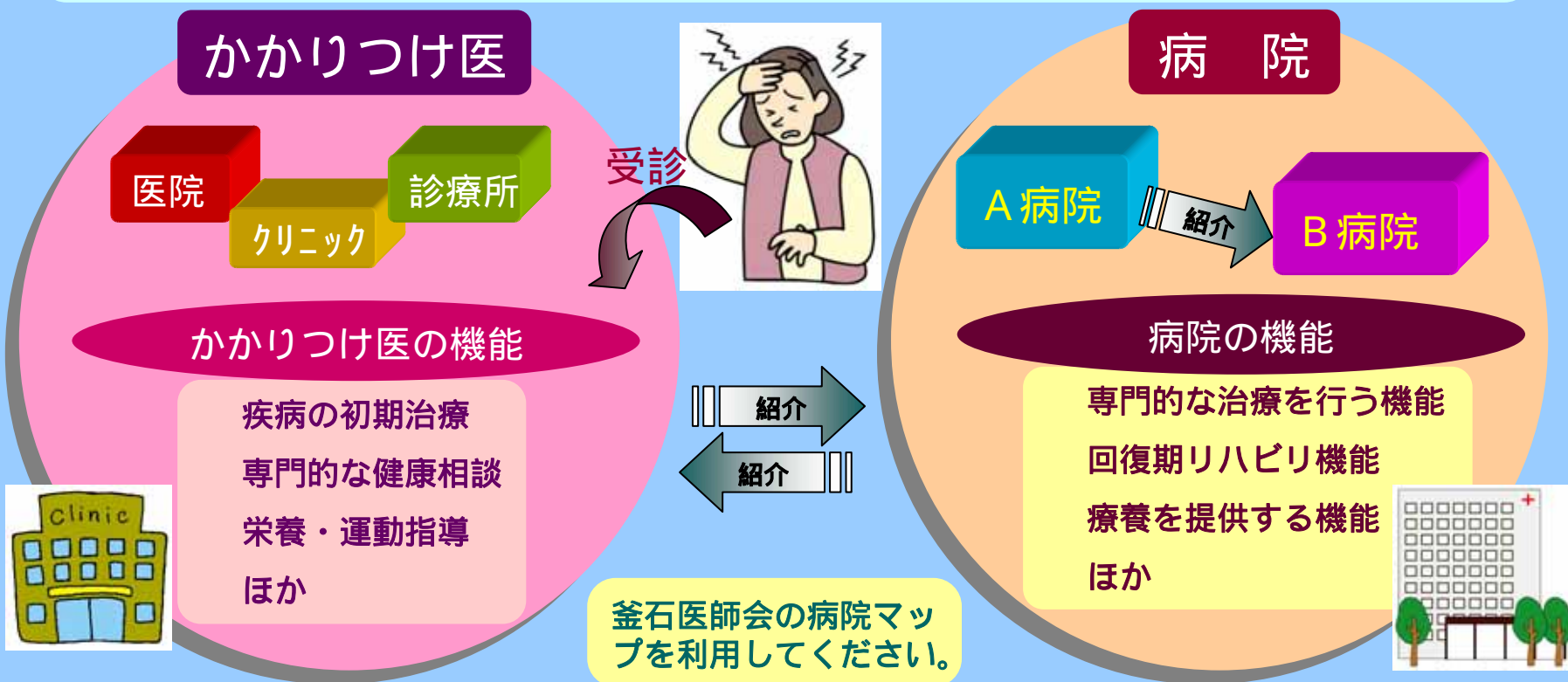
をいしな

もしも病気になったら

～病院のかかり方～

かかりつけ医を持ちましょう!!

医療機関は、機能に応じた役割分担・連携を行っています。
軽症の場合は、診療時間内にかかりつけ医で診察を受けましょう。



市民の皆さんへのお願い

～地域の医師・医療を守るために～

やってみましょう

みんなで作る
健康・安心の環”

まずはできるところから…

医師不足に歯止めをかけるために

自らが『健康は自分で守る』という意識を持ち、健康づくり・予防に努めましょう。

普段から、かかりつけ医を持ちましょう。



皆さんが適切に受診するために

医療に関する知識を学ぶために、市の健康講座や研修会等に積極的に参加しましょう。

病院や勤務医の実態に関心を持ちましょう。

救急病院の負担を軽減するために

症状や緊急度に応じた適切な受診を心がけましょう。

不要・不急な休日や時間外受診を控えましょう。



釜石市の医療機関の状況(1)



釜石市民病院を県立釜石病院に統合

平成19年4月

県立釜石病院〔広域基幹病院〕



旧釜石市民病院施設の利活用

民間病院（釜石のぞみ病院）と3つの診療所（在宅療養支援診療所、整形外科、婦人科）

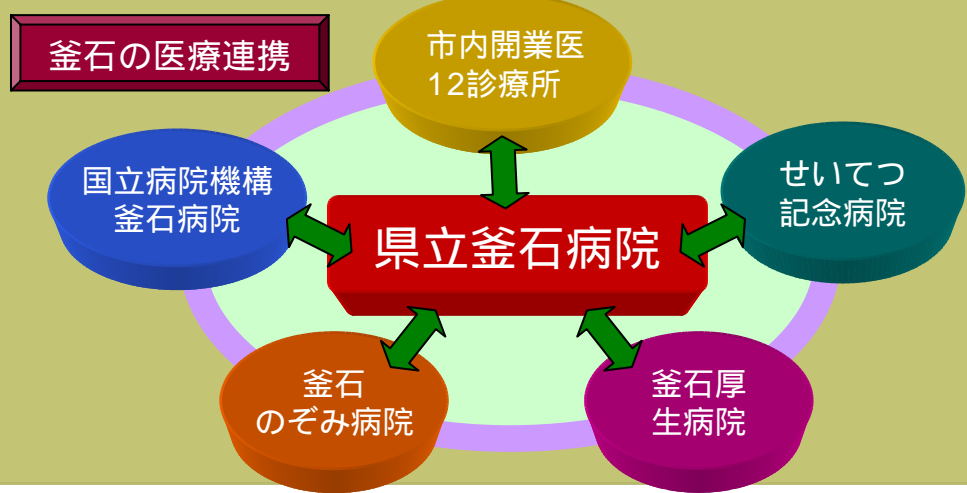
特徴

同じ建物内に慢性期病院と在宅療養支援診療所があることで、入院と在宅医療の調整が円滑に進みます。

複合施設に移行

保健福祉センター
（保健・福祉・生涯学習の活動拠点）

診療科 総合診療科・内科・循環器科・消化器科・神経内科・外科・産婦人科・小児科・整形外科・心臓血管外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・形成外科・呼吸器科・麻酔科・リハビリテーション科



釜石市の医療機関の状況(2)

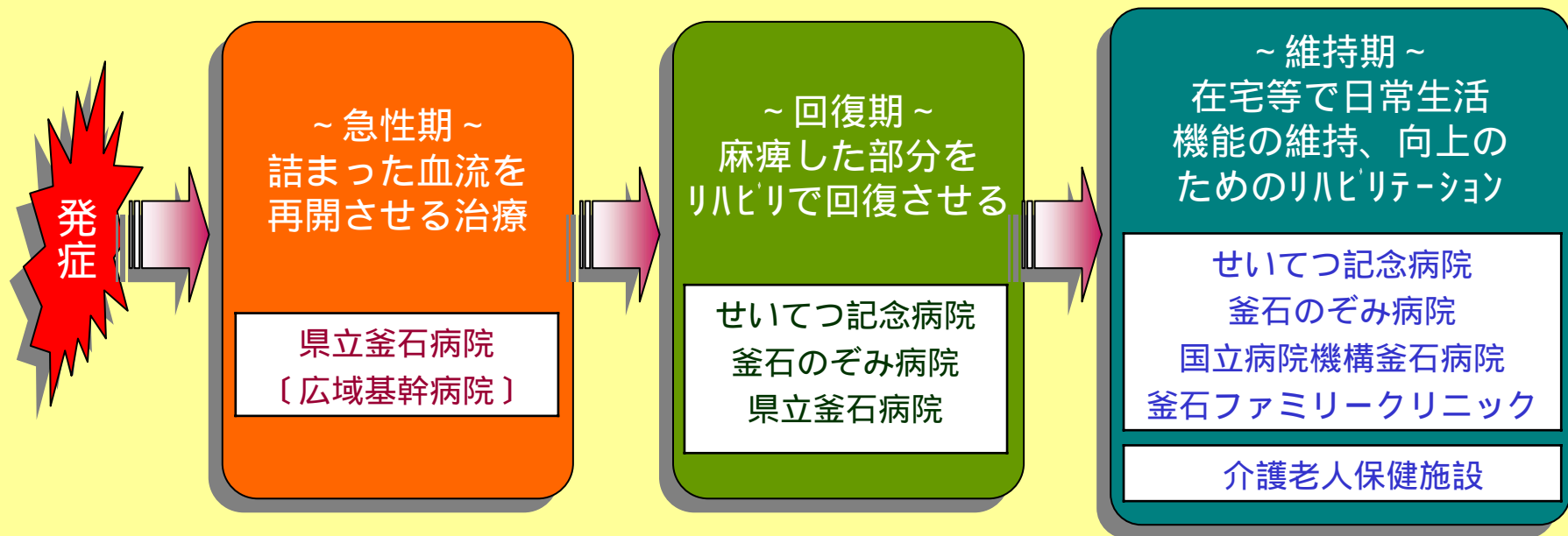
主要な病気について、各医療機関が持っている「機能」を明確化

目指すものは 切れ目の無い医療システムの構築

医療資源の有効活用

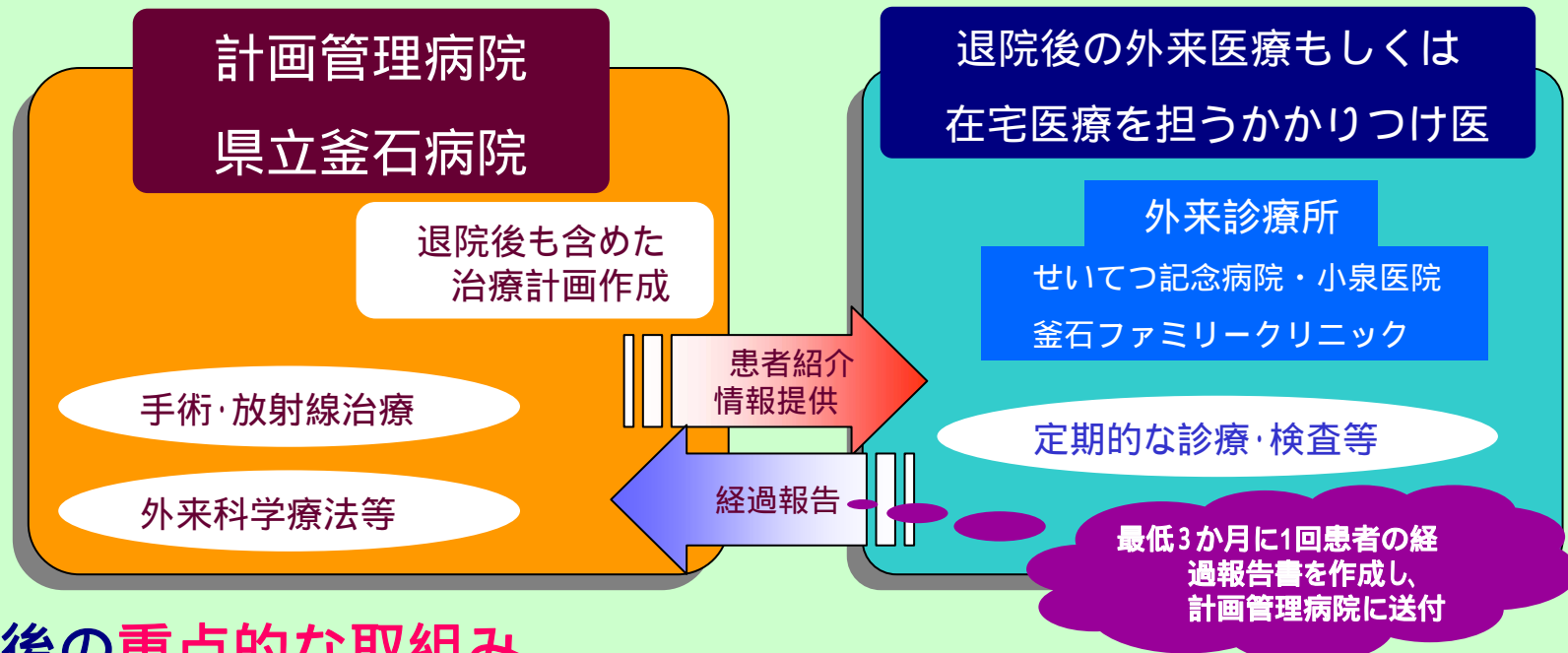
病院や診療所の、在宅医療の機能の明確化、ネットワークづくり

脳卒中地域連携パス



釜石市の医療機関の状況(3)

がん診療における地域医療連携



今後の重点的な取組み

地域医療再生計画〔H21～25年度〕の推進【県立釜石病院の機能強化】

医師、看護師等医療従事者の確保

保健・医療・福祉・介護の連携強化



地域医療再生計画

(平成21年度～平成25年度)



県立釜石病院

地域がん診療拠点病院化
がん放射線治療機器を整備
併せて、病院施設の耐震化

総額
約25億円

地域医療連携の
推進

- ・在宅医療推進センターの設置
- ・圏内医療機関を繋ぐ医療情報ネットワークシステムの構築



周産期医療体制の環境整備

- ・院内助産施設の改修整備
- ・新生児搬送用高規格救急車の配備

全県的な取組み

地域病院担い手医師の育成
医学部生に対する奨学金の拡充
市町村が行う中核病院に対する診療応援事業を支援
医療機関における認定看護師の養成を支援



さきがけとなる取組み

院内助産システム

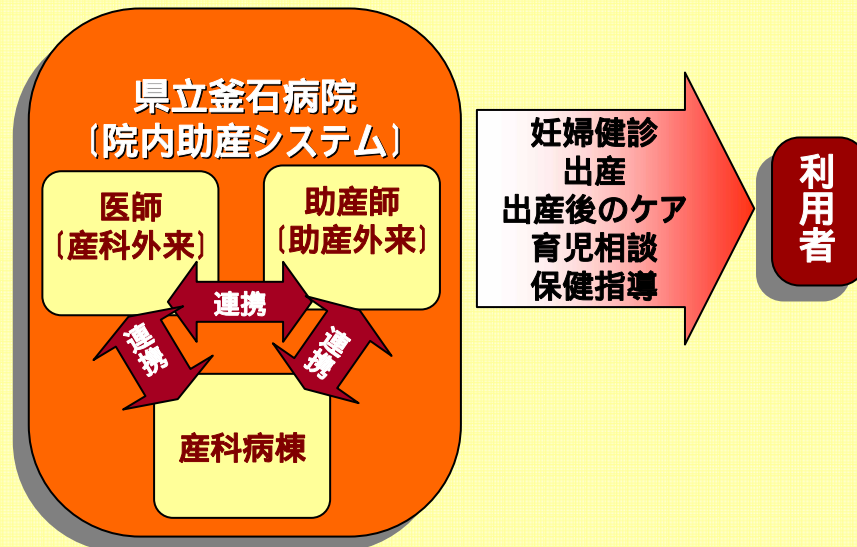
～助産師による自然体の出産～

妊婦健診、お産、お産後のお手当て、育児相談など、継続的なケアを担当助産師が一貫してサポート

自宅出産のような安心感のあるお産の良さと、整った医療設備による安全性を兼ね備えたシステム

異常があった場合、医師との連携により速やかに対処

ハイリスクの場合、県立大船渡病院〔地域周産期母子医療センター〕での出産



県立釜石病院サポーターズの活動

市民率先 地域医療を守れ!!

結成

2009年2月

活動

- 県立釜石病院の案内ボランティアや清掃活動
- 医療現場の勉強会開催
- 市民に対する啓発活動
- ・かかりつけ医師を持つ
- ・コンビニ受診（不要不急な安易な受診）の自粛

背景

過酷な勤務を強いられる医師の負担軽減



さきがけとなる取組み

在宅医療の推進〔民間診療所の取組み〕

～最後まで住み慣れた自宅で過ごすために～

在宅医療の対象者

本来は定期的な診察が必要で、外来受診が困難な方

脳梗塞後遺症、神経筋疾患、寝たきり状態 など

病状のために自宅療養を希望される方

がん、脳卒中、心臓病、老衰 など

特色

患者とその家族の生活の“質”を重視

休日を含めて24時間対応

終末期医療への貢献〔重症患者の在宅での看取り（みとり）〕

訪問看護ステーション、介護・福祉サービス等との連携

病院との連携による在宅から入院、入院から在宅への円滑な移行

在宅医療の内容

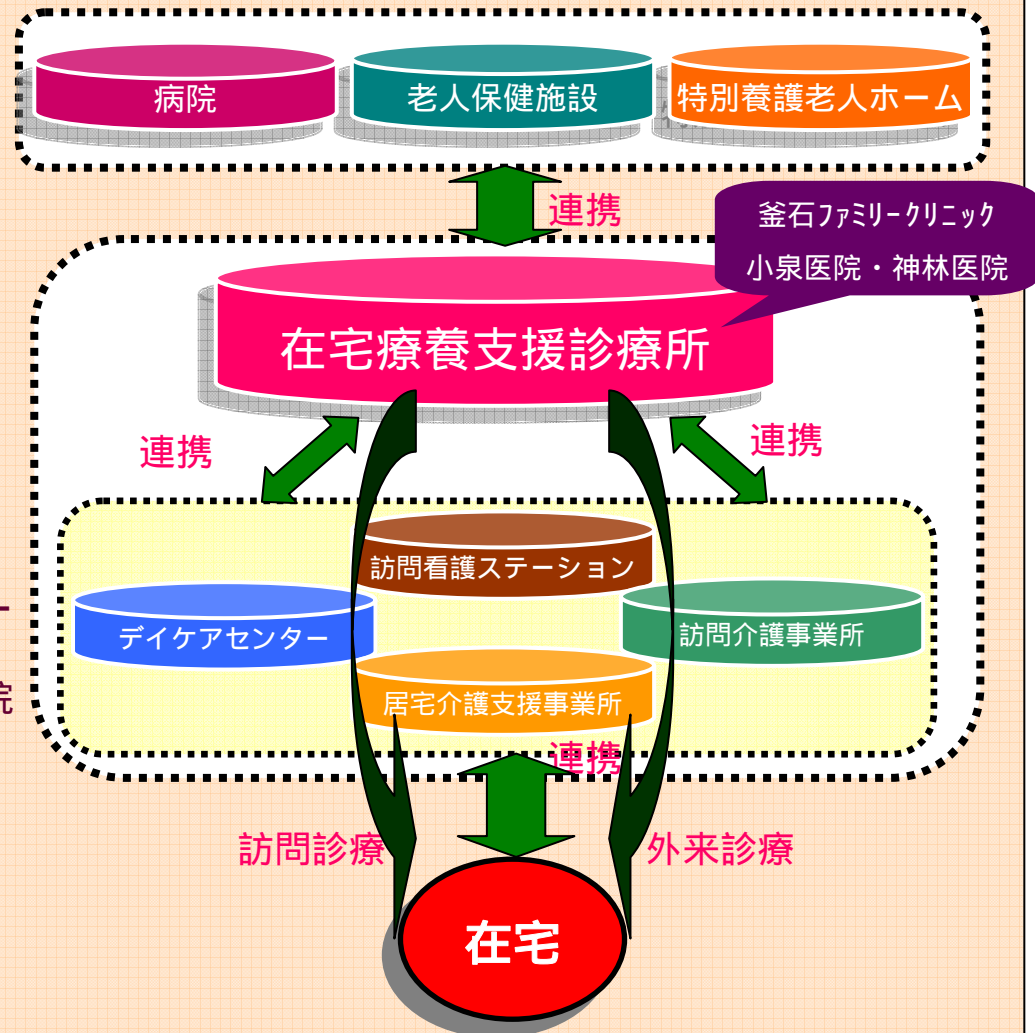
がん等の痛みの緩和

胃ろうカテーテル、導尿などの管理

酸素療法

床ずれの予防と措置

服薬・栄養指導 など



地域医療を守るための支援策

釜石市独自の支援

医療従事者を育てる

保健師、助産師、（准）看護師、理学療法士、作業療法士を対象とした奨学金制度
保健師、助産師、（准）看護師を対象とした研修費の助成（職場復帰等の支援）

臨床研修医を応援する

市内で臨床研修をする研修医に研修参加費を助成（県の支援制度を補完）

地域医療を守る

県立釜石病院消化器科の医師不在時に釜石医師会が行う診療応援医派遣経費を助成



岩手県の支援

将来の医師を育てる

奨学金制度〔H20年度実績：45人程度〕
医学部進学セミナー開催等

臨床研修病院を知ってもらう

医学生対象の臨床研修病院合同説明会・セミナーの開催

研修医に残ってもらう

認定医、後期研修受入態勢等整備

地域に住んでもらう

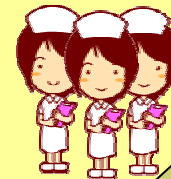
女性医師のための環境整備等

医師・看護師（を志す）の皆さんへ!!

釜石市は、皆さんが働きやすい環境づくりに、積極的に取組めます。

私たちと一緒に釜石の地域医療を支えてください。

支援策に関するご意見も、どしどしお寄せください。



釜石の医療に貢献していただき、医師をはじめ 医療従事者の皆さんを心から歓迎します。



わたくしたちのまち釜石は、三陸漁場の中心港として、また、わが国近代製鉄発祥の地として栄えてきた鉄と魚のまちです。

本市は、三陸海岸をはじめとする豊かな自然と四季折々の風情、企業城下町として栄えてきた歴史・文化など、素晴らしい素材や魅力が暮らしの身近なところに溢れています。

しかしながら、本市における人口当たりの医師数は、県平均を下回り、県庁所在地の盛岡圏域の半分以下となっており、医師の確保に苦慮しているのが実情です。

このような状況下にはありますが、一方では本市の医療は平成19年に県立釜石病院と釜石市民病院が統合されて以後、医師会をはじめとする医療機関のご尽力により、「急性期医療」「慢性期医療」「在宅医療」といった枠組みにより、切れ目の無い医療システムが出来上がりつつあります。

また、県立釜石病院では本年4月から常勤医3人を配置し、総合診療科を開設しておりますが、新患の「窓口」を担うことで専門医の負担を和らげ、地域医療を守る手立ての一つとして、大いに期待しているところであります。

さらには、市民の間でも「県立釜石病院サポーターズの活動」など、過酷な勤務を強いられる病院や勤務医の実態に関心を持ち、地域医療を守るための運動が着実に広がってまいりました。

釜石市といたしましても、貴重な医療資源を効率的に活用できるよう医療と保健・介護・福祉との連携強化に積極的に取り組んでおりますし、独自に臨床研修医の支援制度をはじめ、診療応援医の支援や医療従事者の奨学金制度などを創設しているところであり、今後も皆さんのご意見を伺いながら、医療に従事される方々の働きやすい環境づくりに向けて、新たな支援策も講じていきたいと思っております。

誰もが健康で生き生きと暮らせる社会を実現するため、是非皆さんのお力を、この『釜石』で発揮してください。皆さんを心から歓迎します。

平成22年6月

釜石市長 野田 武 則